

# パリのセーヌ河岸

## 基本データ

### 所在地

パリ（フランス）  
西はエッフェル塔付近、東はサンルイ島  
付近にわたるセーヌ川及びその周辺地域

### 主要スポット

- ・ セーヌ川
- ・ エッフェル塔
- ・ ルーブル美術館
- ・ ノートルダム大聖堂(パリ)

登録区分 文化遺産  
登録基準 (i), (ii), (iv) 登録年 1991年



## 「パリのセーヌ河岸」の概要



「パリのセーヌ河岸」は特定の建造物ではなく、地帯一帯を指すものです。その中には様々な時代に建てられた歴史的建造物が含まれます。

パリ発祥の地といわれるシテ島には、ゴシック様式のノートルダム大聖堂や、1248年に完成し、パリ最古のステンドグラスで知られるサント・シャペルがそびえ立っています。また、傷痕軍人の受け入れ施設であるオテル・デ・ザンヴァリッド(通称:アンヴァリッド)はルイ14世が造らせたもので、現在では地下にナポレオン1世の墓所があることで有名です。ナポレオン3世の時代にパリは大きく改造され、近代都市になりました。19世紀後半には万国博覧会が5回も開催され、そのためにエッフェル塔やプティ・パレ、グラン・パレ、アレクサンドル3世橋などが造られました。

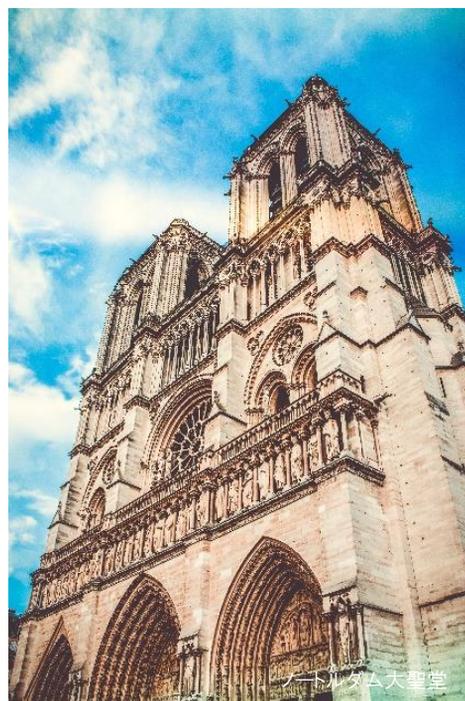
世界遺産登録後もシャン・ド・マルス公園にはモニュメント「平和の壁」が造られるなど、現在でも発展を続ける「パリのセーヌ河岸」はまさにパリの歴史そのものと言えるでしょう。

## 「パリのセーヌ河岸」とヴィクトル・ユゴー

19世紀のフランスの作家ヴィクトル・ユゴーは「パリのセーヌ河岸」を舞台とする長編小説を二つ書いています。一つはノートルダム大聖堂の鐘付き男が登場する『ノートルダム・ド・パリ』、もう一つは『レ・ミゼラブル』です。『ノートルダム・ド・パリ』は文字通りシテ島にあるノートルダム大聖堂が舞台となっていますが、『レ・ミゼラブル』は「パリのセーヌ河岸」に含まれるパリ警視庁やノートルダム橋だけでなく、リュクサンブール公園やパンテオンなども舞台となっています。また、シテ島の少し東側にはヴィクトル・ユゴー記念館もあり、実際に彼が暮らしていた家が展示されています。

小説は少し読みにくく感じるかもしれませんが、どちらもミュージカル化されていて映画にもなっています。パリの風景が描かれていることもあり、ミュージカルもお勧めです。

この二つの作品を読んでからパリに行けば、旅がより充実したものになるでしょう！



参考:

- ・「地球の歩き方」編集室(2017)『地球の歩き方 A07 パリ&近郊の町 2017~2018年版』ダイヤモンド・ビッグ社。
- ・世界遺産オンラインガイド「パリのセーヌ河岸」,<https://worldheritagesite.xyz/paris/>2018年6月4日アクセス。

## 本の紹介



### ヴィクトル・ユゴー『レ・ミゼラブル』

全3巻（ヴィクトル・ユゴー文学館第2-4巻） 潮出版社 2000年

元囚人のジャン・バルジャンはある司教に自身の罪を許されたことで、改心する。事業に成功し資産家となった彼はモンルイユ・シュル・メールで市長として善政を行うも過去を明かされパリへ逃げる。1832年、パリで起こった6月暴動がバルジャンたちの運命を大きく左右する……。

📖【配架場所】本館3階 【請求記号】9580:52:2, 3, 4

## 自己紹介

氏名 出来 悠果

所属・学年 法学部1年

趣味は、映画鑑賞でサークルはBCCに所属しています。大阪出身です。よろしくお願ひします。

